

シラバス記入用紙

大学院名: 東京学芸大学大学院

■科目番号と項目番号

研究科名: 教育学研究科

別紙「科目番号と項目番号」を参照し、下表の科目番号項目番号欄に記入してください。

担当者名: 大野精一

記入例 1-(1)、実1-(1)

科目名: 教育相談演習Ⅱ

No.	授業スケジュール	主な内容	科目番号 項目番号	(認定委員会記入欄)
1	学校教育相談—実践史から	日本の学校における教育相談実践史を総括する	6-(1)	
2	学校教育相談—類型化	学校教育相談実践史から学校教育相談を3つに類型化し、それらの特徴・特長を明確にする	6-(1)	
3	学校教育相談—これからの展望	学校教育相談の今後の課題や展望を明確にする	6-(1)	
4	各国比較から見た学校教育相談—香港・台湾	香港・台湾のスクールカウンセリング実践から日本の学校教育相談の特徴・特長を明確にする	6-(1)	
5	各国比較から見た学校教育相談—アメリカ	アメリカのスクールカウンセリング実践から日本の学校教育相談の特徴・特長を明確にする	6-(1)	
6	各国比較から見た学校教育相談—ヨーロッパ	ヨーロッパのスクールカウンセリング実践から日本の学校教育相談の特徴・特長を明確にする	6-(1)	
7	学校カウンセリングとは—学校教育相談の視点から	学校教育相談の視点から学校カウンセリング(コンサルテーションを含む)を機能的に考察する	6-(1)	
8	学校カウンセリング—カウンセリングの観点から	カウンセリングの観点から学校カウンセリングを機能的に考察する	6-(2)	
9	学校カウンセリング—コンサルテーションの観点から	コンサルテーションの観点から学校カウンセリングを機能的に考察する	6-(3)	
10	学校カウンセリング—コーディネーションの観点から	コーディネーションの観点から学校カウンセリングを機能的に考察する	6-(4)	
11	学校カウンセリング—基礎的な対応訓練としてのMLTその1	基礎的な対応訓練としてのMLTを実際に体験しながら学校カウンセリングを具体的に理解する(狭義の力	6-(2)	
12	学校カウンセリング—基礎的な対応訓練としてのMLTその2	基礎的な対応訓練としてのMLTを実際に体験しながら学校カウンセリングを具体的に理解する(コンサル	6-(3)	
13	学校カウンセリング—実践上の諸問題	不登校やいじめ等の実践上の諸問題から学校カウンセリングの機能を明確にする	6-(5)	
14	学校教育相談体系化の視点—キューブモデルから	キューブモデルを中心に学校教育相談体系化の視点を明確にする	6-(1)	
15	全体のまとめ	学校教育相談の暫定的な全体像を歴史的・理論的・各国比較的に提示する	6-(1)	

※ シラバスを添付してください。

H22年度大学院(修士課程)授業科目シラバス

科目名	教育相談演習Ⅱ(a)
担当教員	大野 精一
対象学年	1年
講義室	
開講学期	後期
曜日・時限	金曜日・3時限
ねらいと目標	この授業は、日本における学校教育現場の教師(教諭・養護教諭)を中核とする教育相談実践(学校教育相談School Counseling Services by Teachers in Japan)を理論的・歴史的そして各国比較的に整理し、学校教育相談の体系を演習形式で提示することをねらいとする「教育相談演習」の後半である。ここでの目標は、(1)学校教育相談の実践史をまとめ、そして(2)アメリカやヨーロッパ、東アジア等の各国で展開されているスクールカウンセリングと比較し、(3)中心機能としての学校カウンセリングの内実を明らかにすることによって、学校教育相談の体系を把握することを目標とする。
内容	主として4つの内容につき、講義と必要な文献購読を中心に授業を進めるが、随時グループによる議論やロールプレイング、事例研究等を行う。(1)学校教育相談の実践や研究に関わる文献を輪番制で講読・報告し、実践や研究の類型化を中心に議論をする。(2)日本と同型の「学校教育相談」実践が展開している香港・台湾等の東アジアや欧米のスクールカウンセリングの実践や研究についてレポートや議論、補足的な講義を行い、日本の学校教育相談の独自性や限界を明確にする。(3)中核機能としての学校カウンセリングをカウンセリング、コンサルテーション、コーディネーションの3つに区分してそれぞれの意義やスキル等を実践的に把握することで、学校教育相談の独自のあり方を確認する。(4)各受講者がそれぞれに学校教育相談の体系性を主体的に把握できるようにするため個別的な課題を設定・遂行しそれを発表する。
テキスト	大野精一 学校教育相談—理論化の試み ほんの森出版 1996; 大野精一 学校教育相談—具体化の試み ほんの森出版 1997
参考文献	その都度事前に指示し、その一部は著作権等法令を順守した上で、Web-site http://schoolcounseling.cocolog-nifty.com/ から入手できるように準備している。
成績評価方法	出席回数や課題・レポート、発表内容・受講態度などを中心として総合的に判断するが、「演習」であるので出席回数や積極的な受講態度も重要な評価対象とする。
授業スケジュール(展開計画)	(1)学校教育相談—実践史から (2)学校教育相談—類型化 (3)学校教育相談—これからの展望 (4)各国比較から見た学校教育相談—香港・台湾 (5)各国比較から見た学校教育相談—アメリカ (6)各国比較から見た学校教育相談—ヨーロッパ (7)学校カウンセリングとは—学校教育相談の視点から (8)学校カウンセリング—カウンセリングの観点から (9)学校カウンセリング—コンサルテーションの観点から (10)学校カウンセリング—コーディネーションの観点から (11)学校カウンセリング—基礎的な対応訓練としてのMLTその1 (12)学校カウンセリング—基礎的な対応訓練としてのMLTその2 (13)学校カウンセリング—実践上の諸問題 (14)学校教育相談体系化の視点—キューブモデルから (15)全体のまとめ
授業のキーワード	学校教育相談 カウンセリング コンサルテーション コーディネーション ASCA 指導教師 MLT キューブモデル
受講補足(履修制限等)	教育相談演習Ⅰを合わせて受講することが望ましい
その他	この授業は、学会連合資格「学校心理士」認定運営機構が定めた『「学校心理士資格」取得のための大学院における関連科目(履修内容)の新基準』の「7. 学校カウンセリング」も参照して、構成されている。